

いちご「山形S7号」の育成経過と特性

1. 育成経過

- ・平成24年度(2012年)に、「サマーティアラ(当室育成)」を種子親、「なつじろう(北海道育成)」を花粉親として交配し、実生を作出した。
- ・平成25年度(2013年)四季成り性を有する7個体を一次選抜し、優良系統とした。
- ・平成26年度(2014年)草勢や果実が大きい特徴を持つ3系統を二次選抜。
- ・平成27年度(2015年)生産力検定を行い、収量が多く、鶏冠果等の奇形果が少ない1系統を選抜した。
- ・平成28年度(2016年)継続して生産力検定(2年目)を行い、「砂丘S7号」と命名した。
- ・平成29年度(2017年)奨励品種決定調査事業の基本調査を園芸試験場(現:園芸農業研究所)、最上総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室、庄内総合支庁産業経済部農業技術普及課産地研究室で2か年(平成29~30年)実施した。
- ・令和元年(2019年)生産振興が見込まれる庄内及び最上地域の産地研究室で基本調査を継続。
- ・令和2年(2020年)から奨励品種決定調査事業の現地調査を酒田市と鮭川村の2か所で3か年(令和2~4年度)実施した。
- ・令和4年度山形県職務育成品種登録審査会において品種登録出願が決定された。
- ・令和5年(2023年)3月8日に品種登録を出願し、10月5日に出願公表された。

2. 特性

(1) 生態的特性

季性は四季成り性であり、夏秋どり栽培に適する。

(2) 形態的特性

草姿は立性であり、草勢はやや強。「サマーティアラ」より花房数、花数が多い。

(3) 果実

果形は円錐形、果皮色は燈赤色、果肉色は淡桃、果実のツヤは「サマーティアラ」と同程度である。「サマーティアラ」より種子の深度は深い。鶏冠果や種子浮き、着色不良が少なく秀品率が高い。収量性は「サマーティアラ」より優れる。

(4) 果実品質

糖度(°Brix)および酸度(クエン酸換算値)は「サマーティアラ」よりやや低く、食味はやや劣る。果実硬度は「サマーティアラ」より高い。



山形S7号の草姿(撮影:R4/7/4)